



卒論の追い込みは、

夏休み明けからが本番です!!

歴史学で

卒業論文を

書くために

2019年
9月18日
刊行



奈良大学文学部史学専攻教授

村上紀夫【著】

定価(本体1,300円+税)

長年、学生の卒論指導に苦勞し、失敗を重ねてきた日本史の先生が書き下ろした、本当に学生に役に立ち、使ってもらえる面白い卒論執筆ガイド。社会人になっても、役に立つ。



村上紀夫

歴史学で 卒業論文を 書くために

就活やバイトで忙しい中、
人生たった一度きりの
《**學術論文**》に挑む、
全学生に捧ぐ。

社会人になっても
(なっから!) 役立つ、
卒業論文、
歴史・民俗ファンにも
オススメ。

B6判変形/並製/224頁

目次抜粋

- ▼はじめに 学問の楽しさと卒業論文／なんのために卒業論文を書くのか
- ▼第1章 卒業論文の前に 準備するもの／作業は迅速に
- ▼第2章 卒業論文の題目を考える 研究テーマを決める／題目を提出するために／ありがちなタイトル
- ▼第3章 論文の集め方と読み方 まず文献目録を／論文探索と「講座もの」／学術雑誌から論文を探す／データベースの過信は禁物
- ▼第4章 史料があつてこそ 史料を探そう／手間は惜しまないこと／分類と関連づけ
- ▼第5章 夏期休暇の有効活用 夏休みに終えておくこと／研究史の整理／史料所蔵機関での調査／ちゃんと調べてから
- ▼第6章 史料を読む 史料を理解するとは／史料の年代比定／言葉へのこだわりを／表の説得力／ただし数字には注意
- ▼第7章 章立てを考える 執筆前に章立てを考える／ダラダラ論文はやめよう

著者略歴

村上紀夫(むらかみのりお)

一九七〇年愛媛県今治市に生まれ、瀬戸内海の波音を子守歌に育つ。歴史が好きで、高校時には地元の寺社や城跡などを頻りに調査・見学、水軍史を学ぼうと立命館大学文学部史学科に進学する。京都では、その歴史や文化に深く魅了され、当時発表されたばかりの瀬田勝哉氏の論文「失われた五条橋中島」(月刊百科)304号、一九八八年)に影響を受け卒論を執筆。京都五条橋を舞台に、文学作品や地誌等を史料としてその背景にあった信仰について考察を加えた卒業論文は、拙いながらも後の研究の原点となっている。その後、大谷大学大学院文学部研究科博士後期課程を中退、現在は、奈良国立博物館や平城宮跡のほか、世界遺産になっている興福寺や春日大社も近くにある、奈良大学の文学部史学科教授として日本文化史を担当。歴史を身近に感じる環境で学ぶ、真面目で熱心な学生に教えられることも少なくない。また最近では、カマコ片手に、京都や奈良を散歩するのが楽しみのひとつになっている。著書に「近世動進の研究」(法蔵館、二〇一一年)、まちかどの芸能史「解放出版社、二〇一三年」(京都府地蔵盆の歴史)(法蔵館、二〇一七年)などがある。

- ▼第8章 文章を書く 論文の文体／論文にふさわしくない表現／白い論文と黒い論文／史料翻刻のルール／史料翻刻の例
- ▼第9章 注をつける 注は用語解説ではない／注がなければ論文とはいえない／注番号をどこにつけるか／孫引き厳禁
- ▼第10章 「はじめに」を書く 「はじめに」には何を書くか／研究史を整理する／先行研究がないときは？／あなたにしか書けない研究史を
- ▼第11章 「おわりに」を書く 「おわりに」が終わらないと／結論あつてこそ論文
- ▼第12章 下書きが書けたら 書いたら必ず読みなおす／ワープロソフトのお節介りに注意／誰かに読んでもらう／大学からの配付資料を再確認
- ▼第13章 提出締切が近づいてきたら とにかく書き始めること／危機管理をする／パソコンの故障に注意／心に気をつけて

創元社

〒541-0047 大阪市中央区淡路町4-3-6 TEL 06-6231-9010

https://www.sogensha.co.jp/

【東京支店】〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-2 田辺ビル TEL 03-6811-0662

FAX

06-6233-3111

歴史学で卒業論文を書くために

定価 (本体1,300円+税)

ISBN978-4-422-80041-7 C1381

冊 申し込みます

※この注文書でお近くの書店様へご注文ください。※書店ご不便の場合は直送もいたします(送料360円。3冊以上送料無料)

取り扱い店名

創元社申込書

ご住所

〒
Tel ()

フリガナ

お名前